熊野芳明 吉田守男君 君 作曲 作歌

曙星瞬 く恋々と 未明

されど近づく蕭晨に

幽愁はつのるせつなくも しばし悄然と

秋の情趣を知る二十 黒俊馬の長嘶に沈思破れ 蕭然秋の小糠雨 原生林の錦 も色寂し

夕陽返し珠玉の如 赤紫雲の黄昏 時雨もやみてあかねさす が翅翎に我が久懐 Ē

情けの露を探求むなりなり

真情の友も

へと託すかな

野を流離えば深き哀愁のをするない。 木の葉さやぎぬ涼風に

対に

滴る血の雫

震は来にけり石狩野

払暁

遥かに煙る大平原は、だいへいげん

己が運命か斯くあるが きらめく長庚にただ涙

夢幻か人の世は

の百子夜に我悄然

地平の彼方。 秋の百子夜! 過りて落つる流れ星はである。 ただただ。涙は何故か ハヘ冴星空を